

VR(バーチャルリアリティ)を活用した教育システム

販売元:ミドリ安全株式会社 ※レンタル貸出は行っていません。「RIMM」は三徳コーポレーション株式会社の製品となります。また「RIMM」は、三徳コーポレーション株式会社の登録商標です。
【お問い合わせ先】ミドリ安全株式会社 セフティ&ヘルス統括部 TEL 03-3442-8294

労働災害の件数は減少してきていますが、一方で、労働災害を目撃する機会も減り、「何が危険か」「どうなれば危険か」を直感的に把握しにくい職場環境といえます。労働者の危険感受性※を高めるためにVRによる災害擬似体感が注目されています。

※危険感受性とは・・・何が危険か、どうなると危険な状態となるのかを直感的に把握し、危害の程度・発生確率を敏感に感じ取る能力のこと。

一般的な職場の安全教育では…

VRで危険感受性を高める!

座学だけじゃ実感がわかない

俺は慣れているから事故なんて遭わないよ

労働災害の怖さをなんとか伝えられないものか…

墜転落
感電
挟まれ、巻き込まれ

VRで危険を擬似体験

VR(バーチャルリアリティ)で危険を擬似体験するのはどうですか?

VR? ゲームのように遊び感覚では困るんですが…

作業にひそむ「怖さ」を体感

実際にケガをする心配のない安全意識を高めるための教育ツールです。

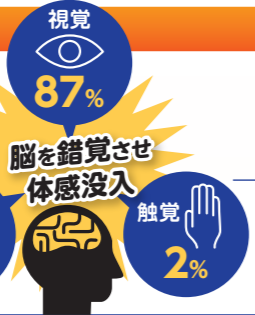
五感(視覚+聴覚+触覚)を擬似再現するVRで災害を体感する

VRは五感を擬似的に再現する技術です。危険な災害事象を安全かつ効果的に体感することができます。職場に存在する危険を具体的に示し、人間の本質的な直感を刺激することで心理的に「怖い!」「嫌だ!」と感じさせ、危険感受性を高めます。

VR災害体感の特長

「視覚」+「聴覚」+「触覚」を直接刺激

直接五感を刺激した体感は学習効果が高いと言われています。



平常時、五感を使って情報を入手する一般的な割合▶

VR災害体感 再現性 **96%**



厚生労働省の第14次労働災害防止計画でもVRを応用した危険感受性向上教育の促進が推奨されています。



サウナの日、1984年に現在の日本サウナ・スパ協会によりサウナの魅力を発信し、健康な生活を送ってもらうことを主な目的に「サ(3)ウナ(7)」の語呂合わせで3月7日に制定されました。サウナは発汗によって交感神経・副交感神経などを整え精神安定に効果があると言われ、健康によいというイメージの普及からサウナブームになるほど近年人気を高めています。



レンタルのニッケン

ホームページでも最新情報をお届けしています。是非ご覧ください。

レンタルのニッケン 検索



安全ニュースのご活用について

弊社は皆様の安全作業に関するよりよい情報をご提供するため、安全ニュースの製作・配布に取り組んでおります。下記、ご理解いただき、ご活用いただけますようお願い致します。
●安全ニュースの一部または全部において、個人・法人を問わず、弊社および引用先(各種団体など)の許諾を得ずに、いかなる方法においても、営利目的にて、無断で転載・複製・複製・再加工・加筆および、公衆送信(インターネットやそれに類した送信)などを利用して提供することを禁じております。
●弊社は、本紙の内容において如何なる保証も行いません。
●本紙内容にて発生した障害および事故についても、弊社は一切責任を負いません。

レンタルのニッケン 公式 X 情報発信中!



フォロー宜しくお願ひします!



安全ニュースで取り上げて欲しい題材やご意見ご要望などがございましたらeメールをご活用ください **e-mail: nikken@rental.co.jp**



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

お客様の安全作業のために。

レンタルのニッケン

安全ニュース

Safety news

2024年
3月号

No. 267

編集・発行 株式会社レンタルのニッケン 安全技術部/営業企画部

お問い合わせ TEL.03-6775-7811



特集 新規入場者

- 現場入場経過日数別の死亡災害発生状況
- VR(バーチャルリアリティ)を活用した教育システム
- 新規入場者向け安全衛生のポイント

2024年
4月号の予告

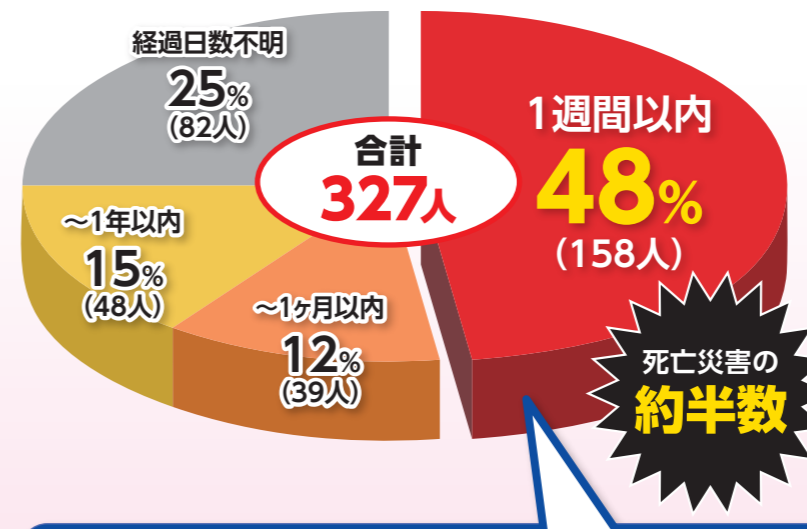
熱中症予防・対策

建設業における死亡災害の多くは「新規入場者」が占めています!

参考出典:「令和2年度版 建設業 安全衛生早わかり」建設業労働災害防止協会

現場入場経過日数別の死亡災害発生状況 (2015年)

※2016年以降は発表がありませんでした。



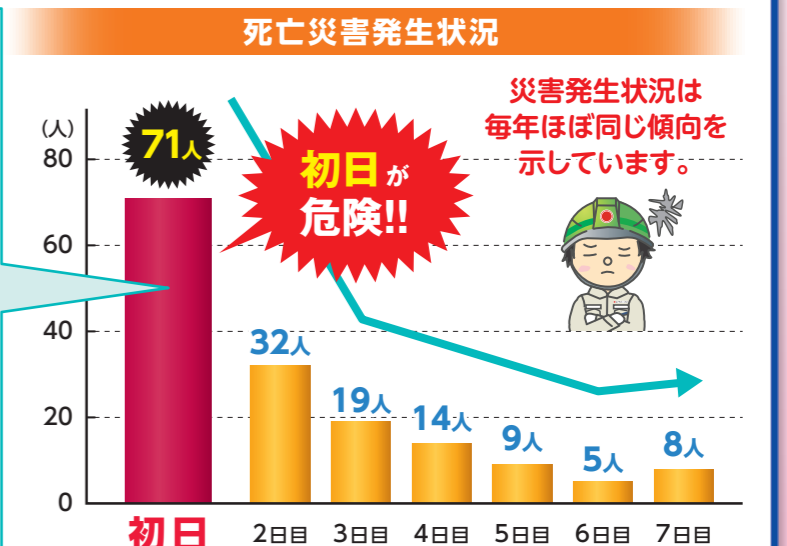
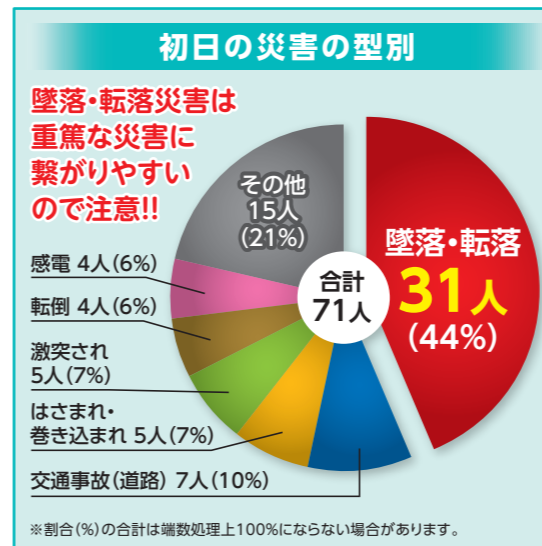
原因

新規入場者の、**基本的な知識の不足**や**慣れない作業環境**により、災害を発生させる割合が高くなっています。

充実した新規入場者教育を行い

現場に関する十分な知識・情報の共有が重要です。

現場入場1週間以内の死亡災害発生状況



★ ホームページにも掲載しております!是非ご覧ください。★

新規入場者向け安全衛生のポイント

※参考:「新規入場者・新規就業者教育 現場で考えられる災害」(厚生労働省) (https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzenproject/concour/2016/sakuhin7/images/n030_1.pdf)を加工して作成。

毎日の安全作業は「健康」と「正しい服装」が大切!

健康

体調不良では、ケガをしたり、仲間をケガさせてしまうかもしれません。健康に気を付けて安全作業を心掛けましょう。

- 夜更かしをせず、しっかり睡眠をとりましょう
- 暴飲暴食はしない
- 朝食は必ず食べましょう



服装

安全に身を守る第一歩は服装です。ヘルメット・作業着・墜落制止用器具・安全靴は、皆さんを守る大事な装備です。

- ①ヘルメットはまっすぐ被る
安全に身を守る為、正しく着用する
- ②あごひもをしっかり締める
転倒の際ヘルメットが脱げないように



- ③墜落制止用器具を着用する
高所作業では墜落防止の為必ず着用する

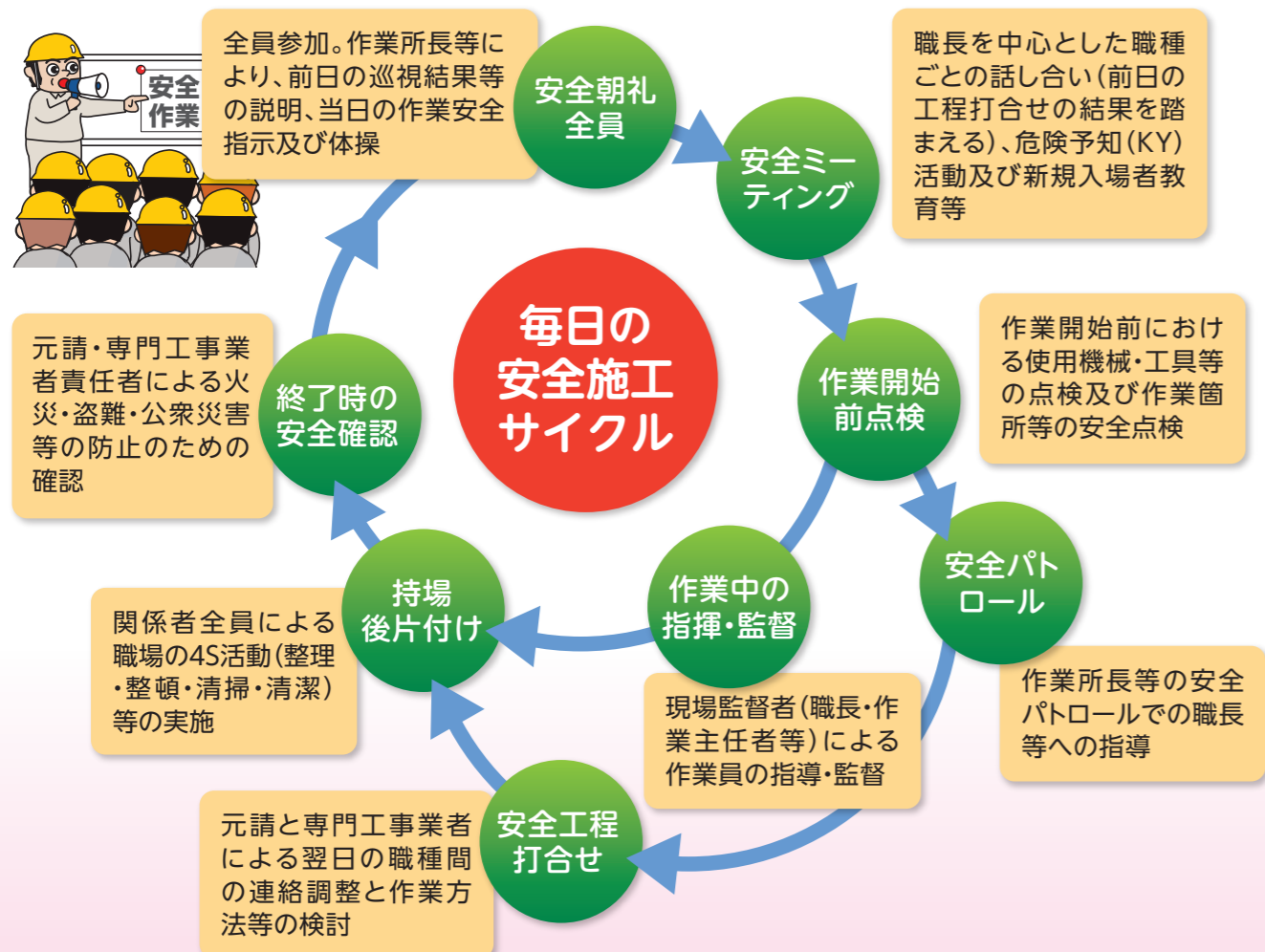


- ④服の乱れを正す
乱れていると思わぬ事故につながる為、乱れを正す
・腕まくりをしない
・チャックを上までしめる等

- ⑤安全靴を履く
足元への落下物、はさまれから足を守る

※参考:「外国人労働者に対する安全衛生教育教材作成事業(建設業) 共通「建設現場全般」」(厚生労働省) (https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/01_common_general_jp.pdf)を加工して作成。

安全施工サイクル



「建築現場」での事故事例

足場からの墜落

- ◆ 墜落制止用器具を正しく使用する
- ◆ 手摺・ネット等の設置
- ◆ 職長による確認・指導の徹底

密室空間での一酸化炭素中毒

- ◆ 密室空間でのガソリンエンジン機械の使用禁止
- ◆ 適切な換気
- ◆ 作業手順への注意を記載

ベルトスリングの破断

- ◆ ベルトスリングの点検
- ◆ 旋回範囲の立入禁止措置
- ◆ 適切な吊り方・重心の確認

火花飛散による火災

- ◆ 引火物には耐火シートなどで養生を行う
- ◆ 燃えやすい物を近くに置かない
- ◆ 消火器・水バケツ等を設置する

「土木現場」での事故事例

吊り荷の振れによる激突

- ◆ 吊り荷付近への立入りを禁止する
- ◆ 有資格者による確実な操作
- ◆ 急旋回などの操作をしない

後進してきたタイヤローラと接触

- ◆ 運転手は周囲を十分に確認する
- ◆ 監視員・誘導員を配置する
- ◆ カラーコーンなどで作業区分を行う

法面からの墜落

- ◆ 前方の確認
- ◆ 法肩に近づかない
- ◆ シートベルト着用

クレーン付車両でののはさまれ

- ◆ 操作時の立ち位置の確認を行う
- ◆ アウトリガー全張り出し
- ◆ 有資格者による操作
- ◆ 吊り荷重量を確認し順守する